

『希望と愛』 ローマ人への手紙5章5-8節 2019.1.20 聖日礼拝説教より

『…なげうなだれるのか、わたしの魂よ なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう「御顔こそ、わたしの救い」と。わたしの神よ。』
詩篇42篇11～12節

クリスチャンとして、信仰が本物かどうかは患難を通して証明される。理不尽な辛い日々の真ん中でこそ確信できることがある。「神は、すべてのことを働かせて益とされる(ローマ 8:28)」から。人生に起きるすべてのことで、私たちは神の導きと祝福を受けることができる。99%以上の人がキリストを信じない日本で、一匹狼ならぬ、「一匹羊」が、羊飼いなる主に導かれ、守られ、何があっても見捨てられないことがない！という信仰告白は、聖霊によって与えられる。

①聖霊による確信(5:5)…「この希望は失望に終わらない…聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているから」の「心」とは、「命の中心、感情、欲望の座」。神の愛は私たちの喜怒哀楽の感情へ注がれる。喜びの時、怒り、悲しみ、落ち込む時…変わらず神の愛が注がれる。御霊と、その愛に気づかせ、神に立ち返らせてくださる！最悪の状況で、愛されている！大丈夫だと分かり希望は強く確かにされる！悪魔は、私たちの神の愛への確信を疑わせ、その信頼を壊そうとして近づいて来る(詩篇 42:3,10)。しかし聖霊は私たちを、最後に悔い改めたヨブの確信へと導く(ヨブ 42:1)。★主を待ち望む者は、あらゆる試練の中で不思議な導きを受け、振り返った時、その試練に大きな目的があったことを知らされる！

②罪人のために死なれたキリスト(5:6-8)…聖霊は罪人に対する神の愛を証する(5:6-8)。「私たちがまだ弱かった時」とは、私たちが神から離れ、神を求めなかった時のこと。聖霊は、「敵」をも愛する「恵みの愛」を知らせる。★毎週の礼拝で御言葉を聴きながら、何かひとつでも心にとどまり、悔い改め、新たな献身が導かれているだろうか？「神さま。私はあなたのものです。日々あなたの御心に従い、今週、あなたと人に喜ばれる一週間としてください」と、心からの渴きをもって祈りたい！神の御霊の働きを受けている人の喜びは、実に大きい。愛されていることがわかり、罪から救われていることを知り、あらゆる試練の中に希望があることを確信させていただける！

★「今、ここで、この罪深く、弱く、無力な私…、こんな私が、神さまに愛されている！」と悟らせていただき、素直に自分の罪を悔い改め、そして神に感謝し、心から神と人に仕える日々となりますように！